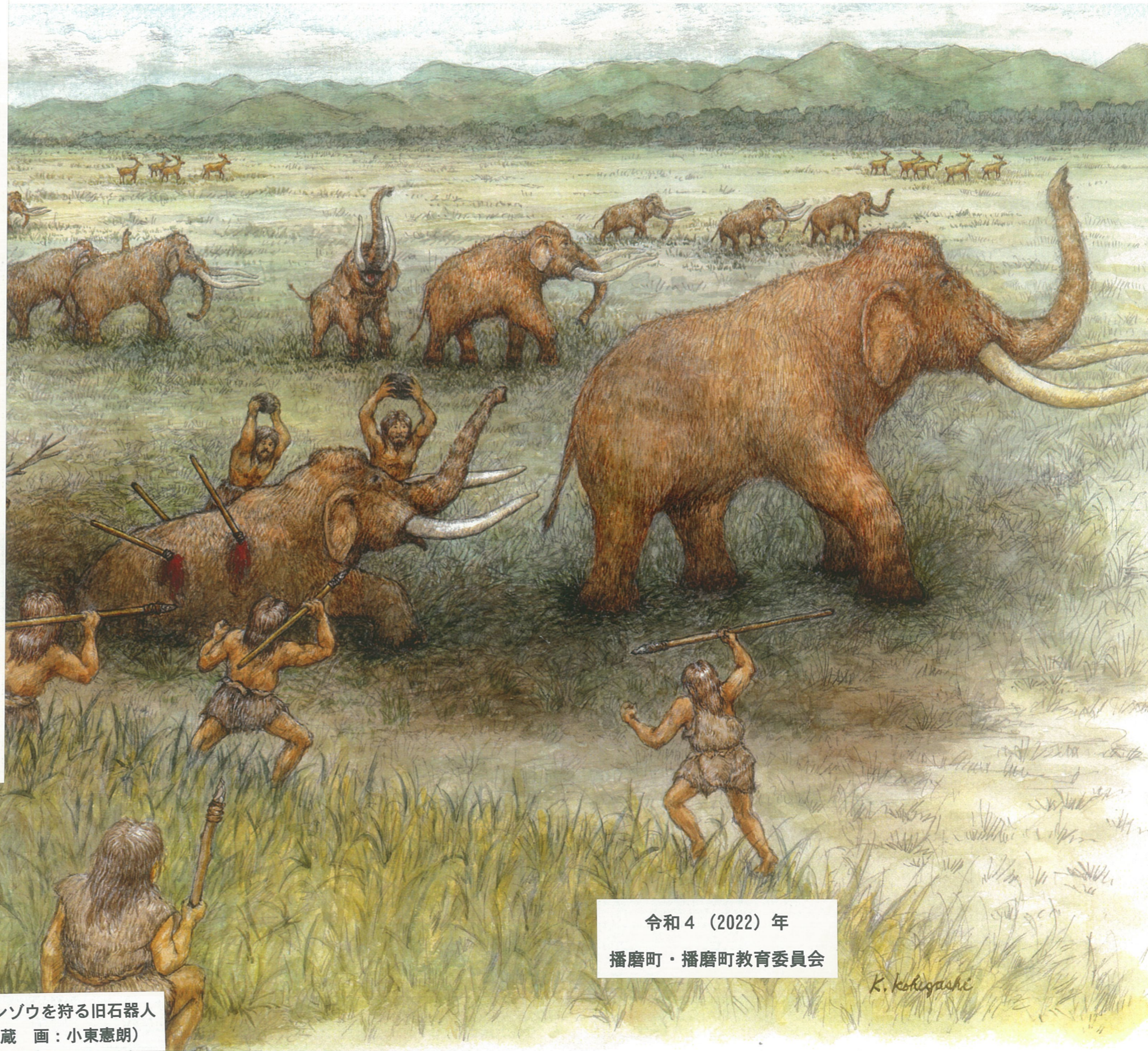


考古学年表

◎:国指定 ○:県指定 △:市・町指定

年代	時期区分	主なできごと	播磨町・播磨地域の主な遺跡など
3万年前 B.C14000	旧石器時代 前期	石斧・ナイフ形石器など日本固有文化 BC28063年 鹿児島始良カルデラ噴火 最終氷河期のピーク、海面約140m低下 土器・石器の使用が始まる 貝塚の形成、土偶の使用始まる	藤江川遺跡(明石市) 西八木遺跡(明石市)
	中期		△大中遺跡(播磨町)・山之上遺跡(加古川市)/石器 西脇遺跡(明石市)
	後期		○福本遺跡(神戸市)
B.C7000	縄文時代 草創期	漆の使用始まる	△大蔵山遺跡(神戸市)
B.C4000	早期	BC5253年 喜界カルデラ噴火20cm降灰 温暖化、海面上昇し海が内陸に入る	○福本遺跡(神戸市)
B.C3000	前期	東日本に大規模な縄文集落成立 環状列石をもつ墓地・祭祀場が発達 土偶・仮面・石刀などの祭祀が盛ん	△大蔵山遺跡(神戸市)
B.C2000	中期		○福本遺跡(神戸市)
B.C1000	後期	東日本の亀ヶ岡文化で遠光器土偶製作 九州北部に大陸から水田耕作が伝わる 環濠集落が西日本各地で作られ始める 鉄器や青銅器の使用が始まる	丁・柳ヶ瀬遺跡(姫路市) 片吹遺跡(たつの市)
B.C600	晩期		日笠山貝塚(高砂市)
B.C300	(早期)	近畿・中国・四国を中心に銅鐸が広まる	今宿丁田遺跡(姫路市)
A.D.1	弥生時代 前期	巨大な墳丘墓が出現	新方遺跡(神戸市)
	中期	倭国の動乱、高地性集落が造られる 豪族の居館が集落から独立し始める	美乃利遺跡(加古川市)
	後期		玉津田中遺跡(神戸市) 養久山・前地遺跡(たつの市)
300	古墳時代 前期	239年邪馬台国の卑弥呼魏に使者を送る 前方後円墳が生まれ、各地で造られる 三角縁神獣鏡が盛んに配布	◎大中遺跡 住居/土器 西泉52号墳(加古川市) ○養久山1号墳(たつの市) ◎丁瓢塚古墳(姫路市) ◎吉島古墳(たつの市) ◎西泉古墳群(加古川市)
	中期	近畿で横穴式石室が造られ始める 須恵器の生産が始まる 大王墳の中心が和歌山から河内に移る	◎五色塚古墳(神戸市) ◎西泉古墳群(加古川市) ◎石の宝殿及び竜山石探石遺跡(高砂市) ○西宮山古墳(たつの市) ○平往湖古墳群(加古川市)
	後期	前方後円墳を築造しなくなる	◎鶴林寺(加古川市) ◎播磨分寺跡(姫路市) 古大内遺跡(加古川市) ○西泉庵寺(加古川市) 太寺庵寺(明石市)
700	飛鳥時代	645年大化の改新。律令国家の形成へ 708年初めて和同開珎を鑄造する	◎鶴林寺(加古川市) ◎播磨分寺跡(姫路市) 古大内遺跡(加古川市) ○西泉庵寺(加古川市) 太寺庵寺(明石市)
800	奈良時代	710年平城京に都を遷す 国分寺・国分尼寺の建立 794年平安京に都を遷す	◎鶴林寺(加古川市) ◎播磨分寺跡(姫路市) 古大内遺跡(加古川市) ○西泉庵寺(加古川市) 太寺庵寺(明石市)
1000	平安時代	末法思想の流行により経塚が造られる 平氏政権が福原京に都を遷す 1192年源頼朝、鎌倉幕府を開く	◎鶴林寺(加古川市) ◎播磨分寺跡(姫路市) 古大内遺跡(加古川市) ○西泉庵寺(加古川市) 太寺庵寺(明石市)
1300	鎌倉時代		◎鶴林寺(加古川市) ◎播磨分寺跡(姫路市) 古大内遺跡(加古川市) ○西泉庵寺(加古川市) 太寺庵寺(明石市)
1400	室町時代		◎鶴林寺(加古川市) ◎播磨分寺跡(姫路市) 古大内遺跡(加古川市) ○西泉庵寺(加古川市) 太寺庵寺(明石市)
1500	戦国時代	1467年応仁の乱、戦国時代の幕開け 戦国大名が城館・城下を築く	◎鶴林寺(加古川市) ◎播磨分寺跡(姫路市) 古大内遺跡(加古川市) ○西泉庵寺(加古川市) 太寺庵寺(明石市)
1600	安土桃山時代	1596年慶長伏見地震 1600年関ヶ原の戦い	◎鶴林寺(加古川市) ◎播磨分寺跡(姫路市) 古大内遺跡(加古川市) ○西泉庵寺(加古川市) 太寺庵寺(明石市)
1700	江戸時代		◎鶴林寺(加古川市) ◎播磨分寺跡(姫路市) 古大内遺跡(加古川市) ○西泉庵寺(加古川市) 太寺庵寺(明石市)
1800	江戸時代		◎鶴林寺(加古川市) ◎播磨分寺跡(姫路市) 古大内遺跡(加古川市) ○西泉庵寺(加古川市) 太寺庵寺(明石市)
1900	近代・現代	1869年東京が首都となる	◎鶴林寺(加古川市) ◎播磨分寺跡(姫路市) 古大内遺跡(加古川市) ○西泉庵寺(加古川市) 太寺庵寺(明石市)
2000	近代・現代	1995年阪神・淡路大震災	◎鶴林寺(加古川市) ◎播磨分寺跡(姫路市) 古大内遺跡(加古川市) ○西泉庵寺(加古川市) 太寺庵寺(明石市)

令和4年度 播磨町郷土資料館 企画展  
「大中遺跡のはじまりー氷河期を生きた旧石器人ー」  
播磨町町制施行 60周年・大中遺跡発見 60周年記念  
会期：令和4(2022)年4月16日(土)～7月3日(日)



令和4年度 企画展パンフレット  
「大中遺跡のはじまりー氷河期を生きた旧石器人ー」  
播磨町町制施行 60周年・大中遺跡発見 60周年記念  
主催 播磨町・播磨町教育委員会  
編集・発行 播磨町郷土資料館  
発行日 令和4(2022)年4月16日

令和4(2022)年  
播磨町・播磨町教育委員会

ナウマンゾウを狩る旧石器人  
(本館蔵 画：小東憲朗)

K. Kobayashi



## 「大中遺跡のはじまりー氷河期を生きた旧石器人ー」

### 「7人の学生が旧石器を見つけた！」

播磨町の大中遺跡から西に続く加古川市の山之上遺跡にかけて広がる台地や潰目池で、昭和39（1964）年から11年間にわたり、浅原重利、藤原清尚、浅原正文、浅原昌三、竹中英典、多田勝義、大辻要二の7名の学生によって、旧石器時代のナイフ形石器などや縄文時代や弥生時代の石鏃などの石器が採集されました。採集された石器は令和2年に当館に寄贈され、その重要性から令和4年に町指定文化財に指定されました。

旧石器時代の石器の種類はナイフ形石器、刃器、角錐状石器、スクレーパー、楔形石器、搔器、彫器、細石刃、有舌尖頭器、その製作段階で生じた剥片や石核等があります。石材はサヌカイトが多く、チャート等も含まれます。これらは後期旧石器時代（約3万年前）から縄文時代草創期（約1万年前）につくられたものです。特にナイフ形石器は瀬戸内技法という割り方で翼状剥片という素材をさらに加工して「国府型」ナイフ形石器をつくりました。また横長剥片を加工した「宮田山型」もあります。切出し状石器には「井島I型」や「茂呂型」の小型ナイフ形石器や有舌尖頭器までもが存在します。これらの石器は約3万年前から1万年前につくられたものですので、長期間にわたってこの地に旧石器人がくらしただけでなく、

### 「氷河期に瀬戸内海は陸地だった！」

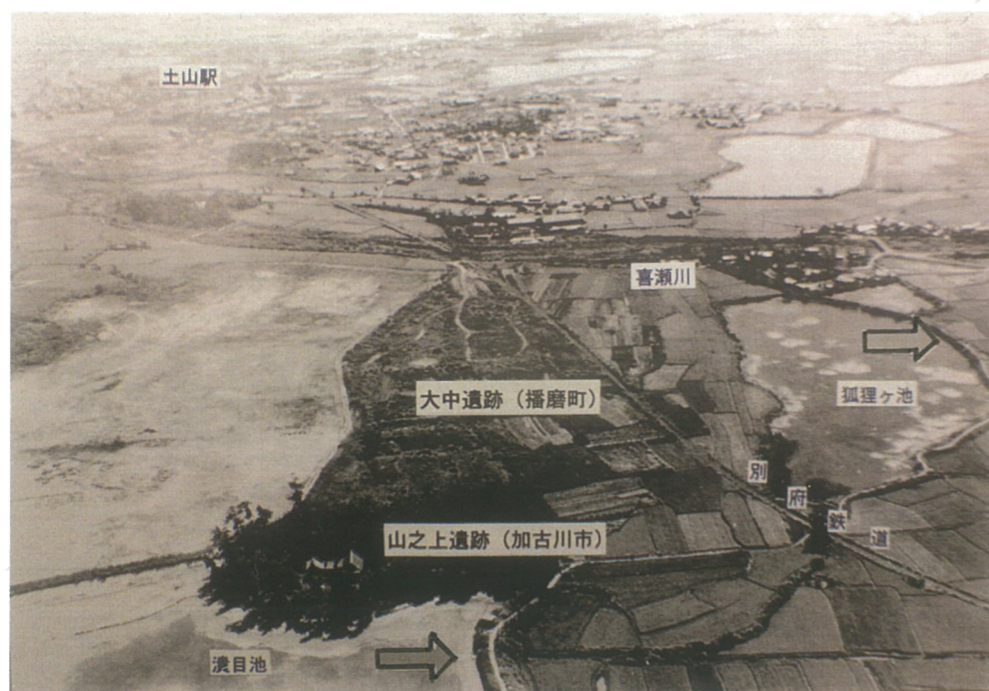
旧石器時代は氷河期にあたるため、気温は今より年平均7度低く、海水が大規模に凍ったことから、海岸線は-140m付近でした。したがって瀬戸内海は全て陸地で、近くで海を見ようとすると、和歌山県日御碕沖までいかなければなりません。

### 「ナウマンゾウやオオツノジカがいた！」

このような冷涼な気候で生きた動物は人のほかに、ナウマンゾウやオオツノジカなどの大型動物もいました。長野県野尻湖の発掘調査で多量のナウマンゾウの骨やオオツノジカの角が発掘されました。それらの動物を狩り、食料や衣服、骨は道具としていたのでしょ。

### 「大中遺跡や山之上遺跡は弥生時代のムラだけでなく、旧石器も重要！」

これらの採集品は旧石器時代から弥生時代にわたり、大中遺跡周辺の段丘に祖先の生活をしのばせるものです。特に旧石器時代のナイフ形石器を含む石器群は人々の交流や考古学の編年研究のうえで欠かせないもので、播磨地方旧石器時代研究の先駆けとなった重要な考古資料です。



石器採集地点 昭和41(1966)年 潰目池上空から南東方向を撮影(矢印が石器採集地点)



石器づくりの達人  
(提供：淡路市教育委員会 画：小東憲朗)



大中遺跡・山之上遺跡採集品 主要石器